

研究開発上の課題及び今後の研究開発の方向・成果の普及

(1) 研究開発上の課題及び今後の研究開発の方向

平成29年度取り組んでの問題点と今後の課題、それに対する改善策等については、次のとおりである。なお、個々のユニットにおける課題とその改善策については、「Ⅲ. 研究開発の内容」に記載している。

研究Ⅰ【探究】新しい価値を創出する「知」の融合プログラムの開発

- ・1・2年次のコース・科の違いにより「探究」の単位数に違いがある。このため、取り組み内容の深さが異なる。
 - 「探究Ⅰ」については、文系フロンティアコースについては、コース独自の取組もあるため、時間が不足しがちである。そのため、内容を精選するとともに求める深さについても軽重をつける。2年次については、課題研究であるため、時間数に留意し、軽重付けて取組を行う。
- ・課題研究等の探究活動の指導に対する教員の技術を向上させる。
 - 探究の時間を担当することで、生徒と一緒に探究の方法を習得する。
- ・2年次の普通科の課題研究について、テーマ等の設定及び指導等の体制を確立する。
 - 「能登を探究する」という大テーマについて、想定される内容について、教員が本年度から準備をすることで、来年度に対応できるようにしている。
- ・教員の探究指導スキルを向上させる。
 - 生徒とともに講座等で学ぶことにより探究スキルの修得を図る。

研究Ⅱ【評価】身に付けた能力を評価する評価方法の開発

- ・「段階的ルーブリック」や「知の履歴」の活用をさらに行う。
 - 「段階的ルーブリック」については、普通教科も含めて、現状を踏まえての改訂を行う。また、「知の履歴」については、来年度、普通科の生徒へも導入する。
- ・評価方法の適正化に向けた研究を深める。
 - 評価方法については、これまでの評価方法（下級生からの評価、成果物の評価後の自己評価）を継続して行い、徹底を図る。

研究Ⅲ【発信】新しい価値を地域・世界へ発信し、共創するプログラムの開発

- ・2年後の融合プロジェクトを準備する。
 - 普通コースの課題研究を「能登を探究する」とし、融合プロジェクトの核になるようにする。

(2) 成果の普及

- ・本校主催の成果発表会や公開授業、石川県小中高理科教育研究大会等の研究会を通して、SSHで得られた成果を発信することで、他校への普及を図る。
- ・石川県SSH生徒研究発表会、高校理科部関係の発表会（物理、化学、生物）において、課題研究の成果を発表する。
- ・SSH情報交換会等での発表を行う。また年次報告書を作成し、SSH校へ配布するとともに七尾高校webサイトのSSHのページで発信を行う。また、本校への視察校に対して説明を行う。
- ・科学教室やサイエンスショー等、生徒と小中学生とが交流し、理解を深める場を提供する。また年間10回以上行われる学校説明会や、体験入学、文化祭、七尾鹿島地区の高校が中学生に対して高校の活動を紹介する合同説明会において、七尾高校のSSH事業の取組について紹介を行う。